santec

証券コード 6777

2008年3月期
中間期決算の概要

2007年11月6日

2007年　中間期決算　ハイライト

- 売上高1,517百万円　前年同期比11.6%増
- 営業利益(連結)　+1百万円
  - 中間期では01年以来　6年ぶりの黒字
- キャッシュ・フロー　実質+96百万円

- 光部品事業が牽引
- 原価低減が奏功

- 2007年　業績見通し
  - 変更なし　年間5円の復配を目指す

2007年　中間実績（連結）

売上高が前年同期比11.6%増加　利益が予想を上回る

（単位　百万円）

	06年中間実績	07年中間当初予想	07年中間実績	前年同期比		予想値差異	
売　上　高	1,359	1,610	**1,517**	+157	+11.6%	▲93	▲5.7%
営業利益	▲113	▲62	**1**	+114	(+101.5%)	+63	(+102.7%)
経常利益	▲140	▲81	**▲27**	+113	(+80.6%)	+54	(+66.5%)
純　利　益	▲142	▲86	**▲59**	+83	(+58.4%)	+27	(+31.3%)

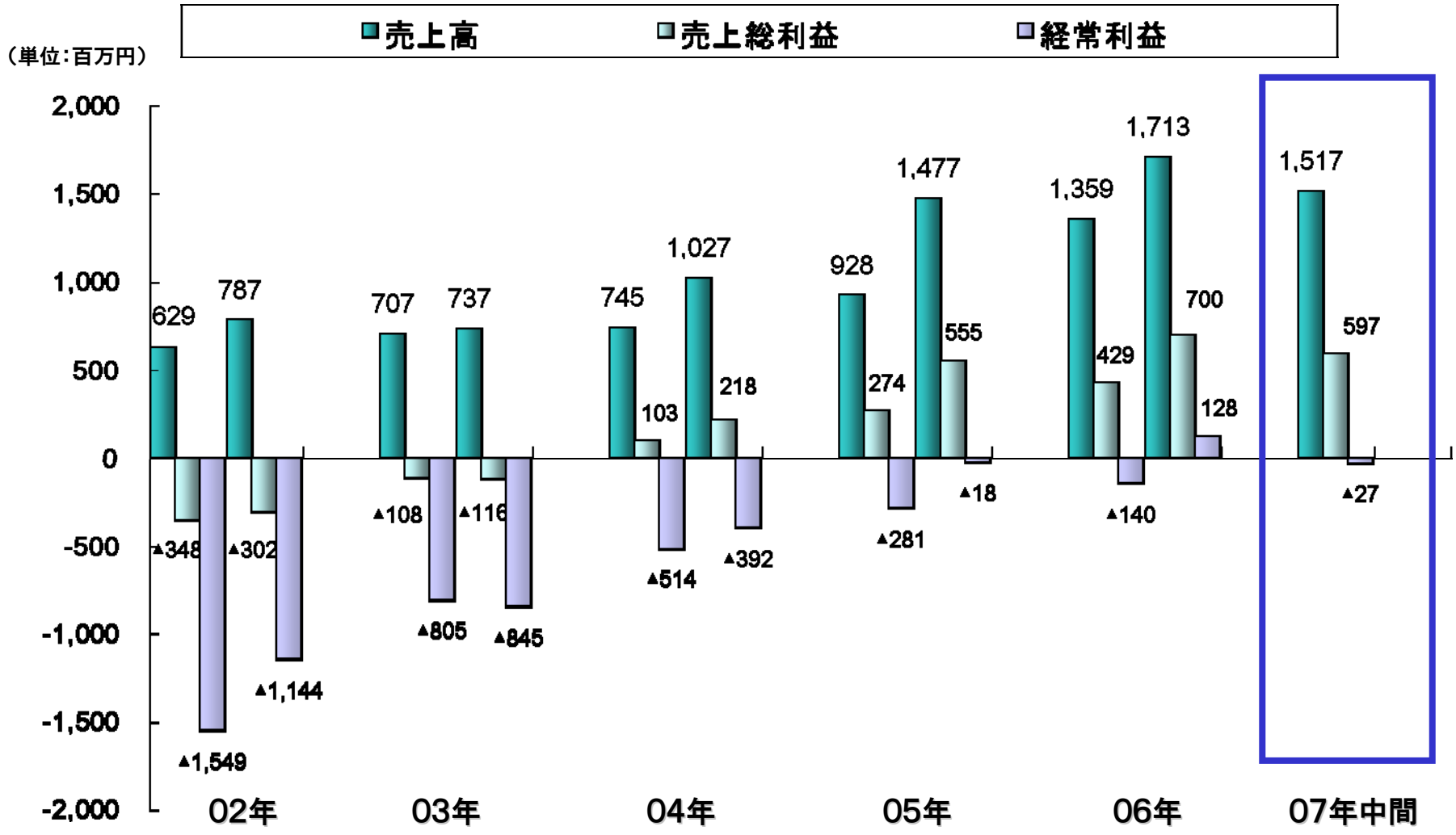
2007年中間　総資産および純資産の状況（連結）

（単位　百万円）

	07年 3月期	07年 9月期	前年度期末比	
総　　資　　産	7,660	**7,628**	▲32	▲0.4%
純　　資　　産	6,892	**6,824**	▲68	▲1.0%
自己資本比率（%）	90.0%	**89.5%**	－	▲0.5(%)
一株当たり純資産(円)	577.31円	**571.57円**	▲5.74	▲1.0%

業績の推移（半期・連結）

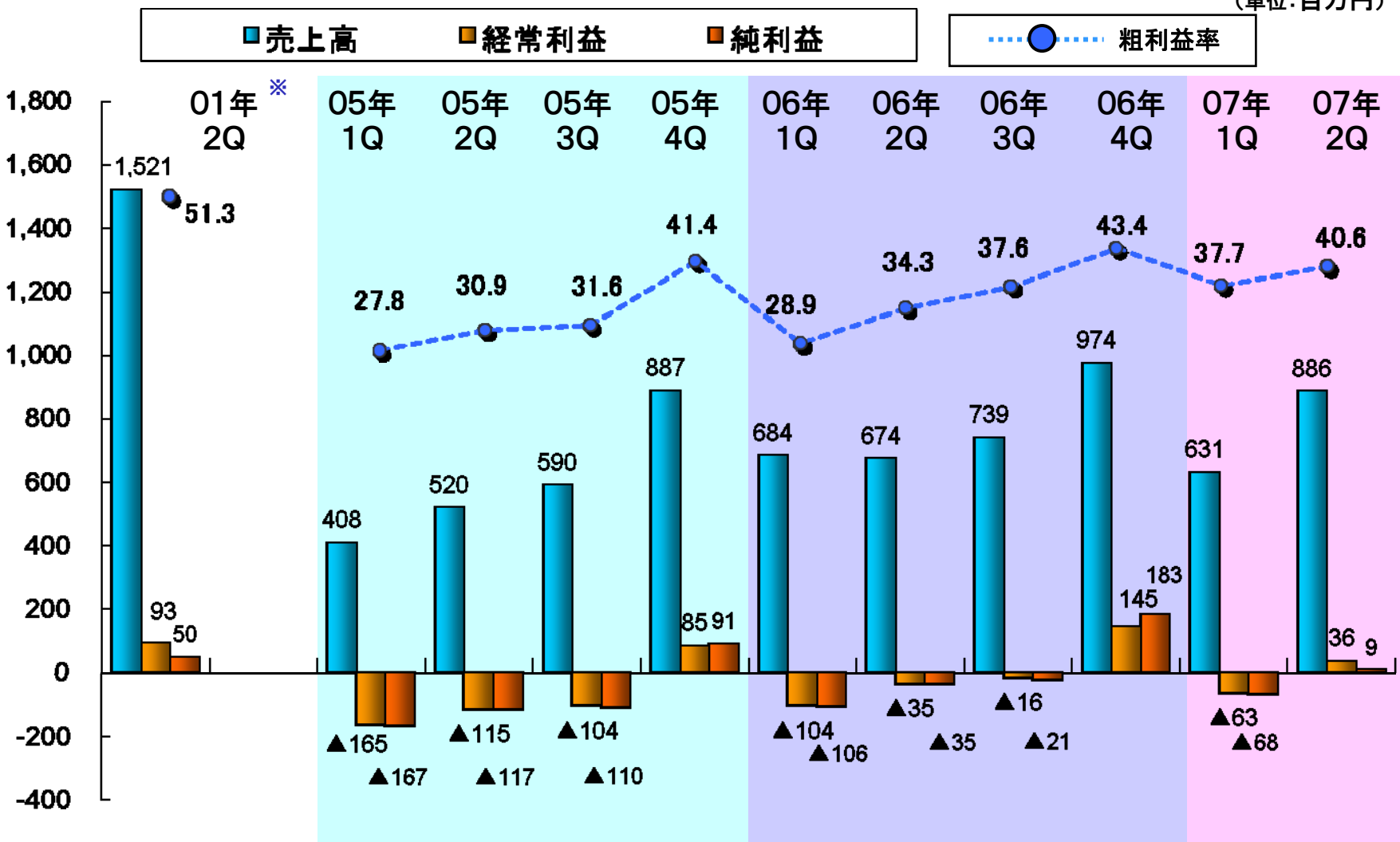
収益性改善により、利益上昇続く



業績の推移（四半期・連結）

粗利率の改善　継続

（単位：百万円）



※過去最高業績値（売上高・上場後）の四半期

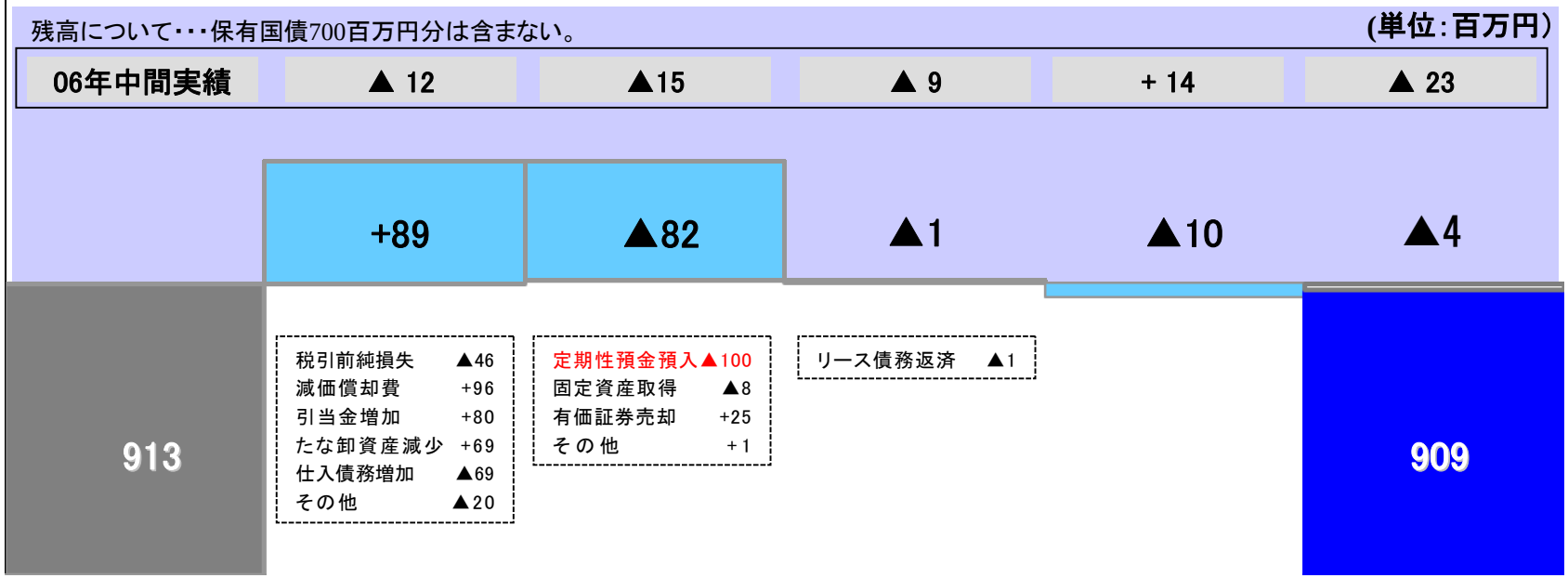
キャッシュ・フロー（連結）

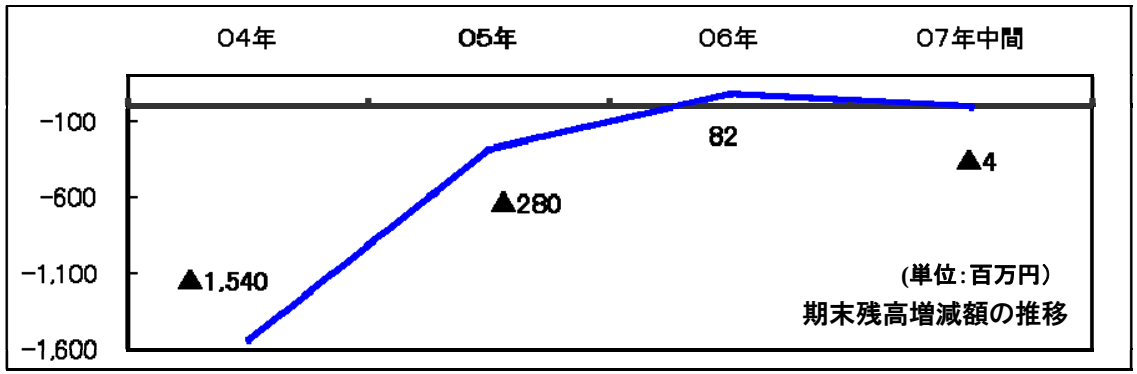
キャッシュ・フロー　実質 ＋96百万円 ※

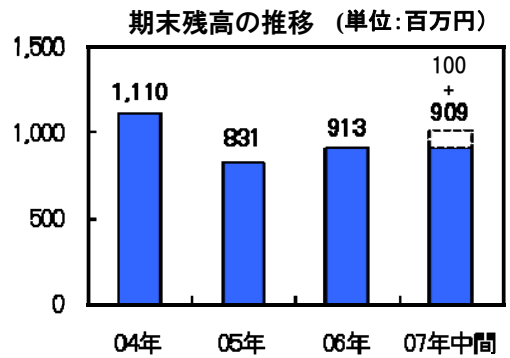
※余剰現金100百万円の定期性預金への組入れを除いた場合

残高について･･･保有国債700百万円分は含まない。　(単位:百万円)

06年中間実績	▲ 12	▲15	▲ 9	＋14	▲ 23







事業別売上実績(連結)

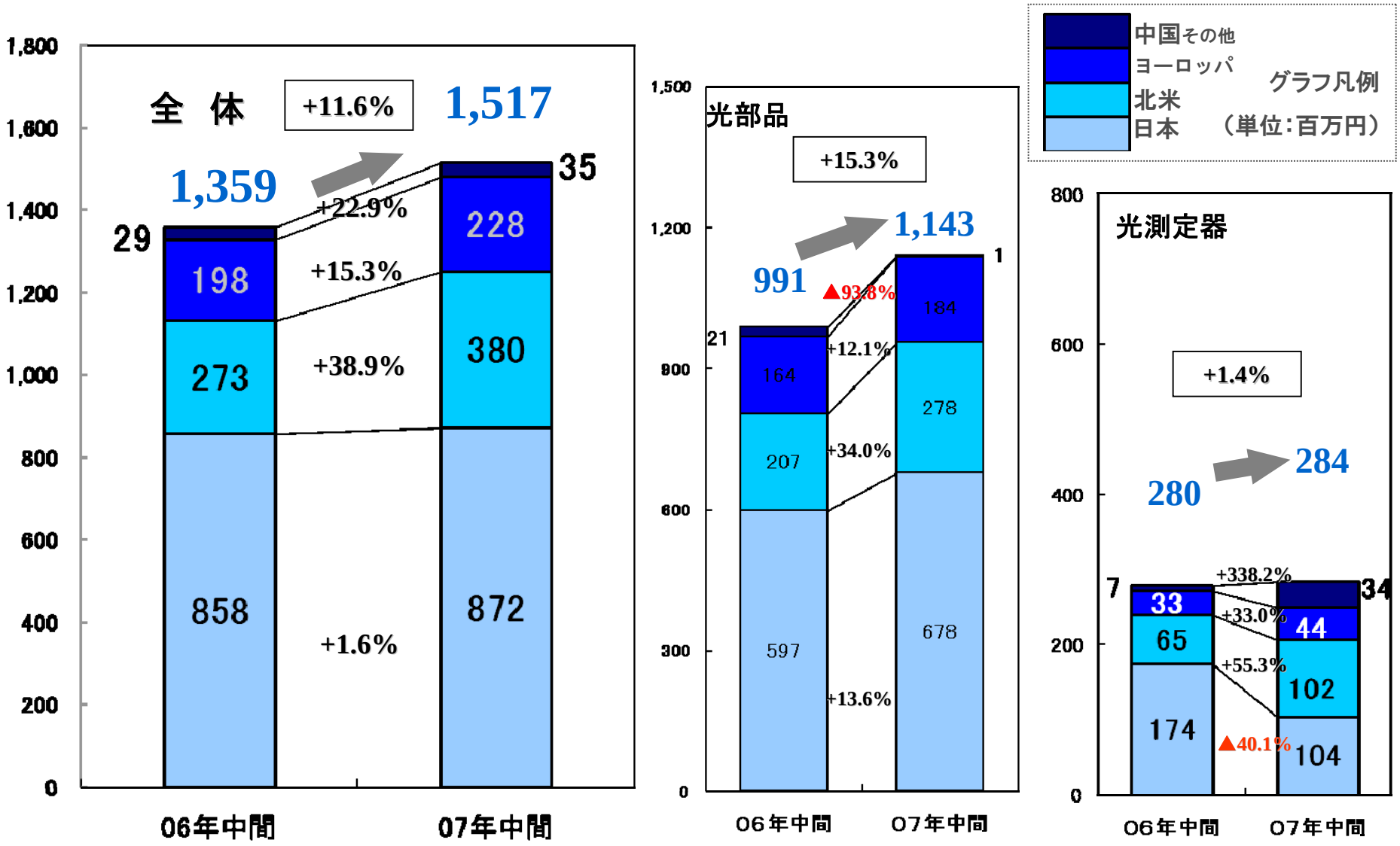
全事業　前年同期比で増収を実現

（単位　百万円）

	06年中間実績	構成比	07年中間実績	構成比	前年同期比	
光部品	991	72.9%	**1,143**	75.3%	+152	+15.3%
光測定器	280	20.6%	**284**	18.8%	+4	+1.4%
その他	87	6.5%	**89**	5.9%	+2	+2.0%
うち　ソフトウェア	86	6.4%	**88**	5.8%	+2	+2.1%
合計	1,359	–	**1,517**	–	+158	+11.6%

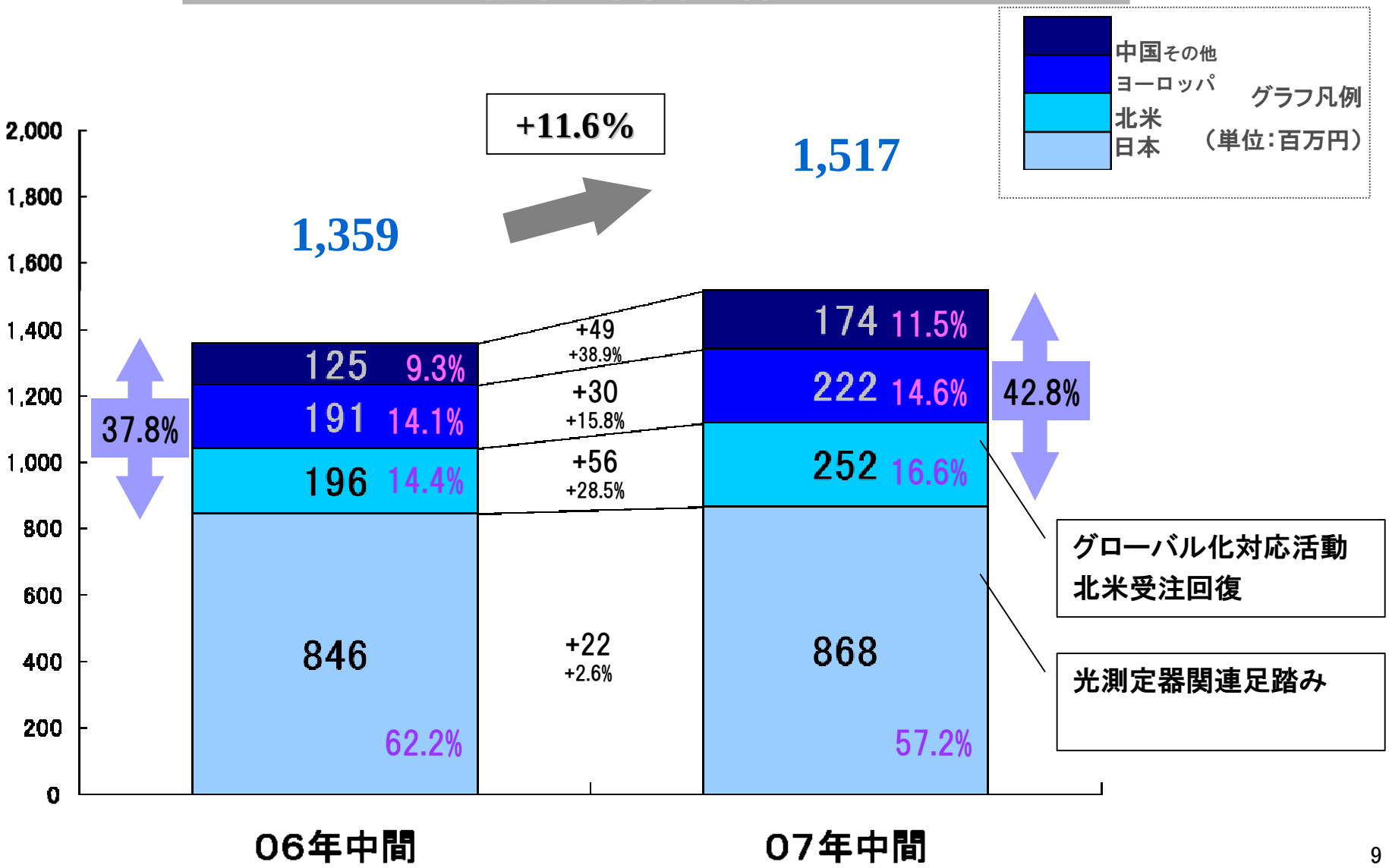
拠点別売上高（拠点/製品構成・連結）

海外市場が回復



地域別売上高(仕向地別・連結)

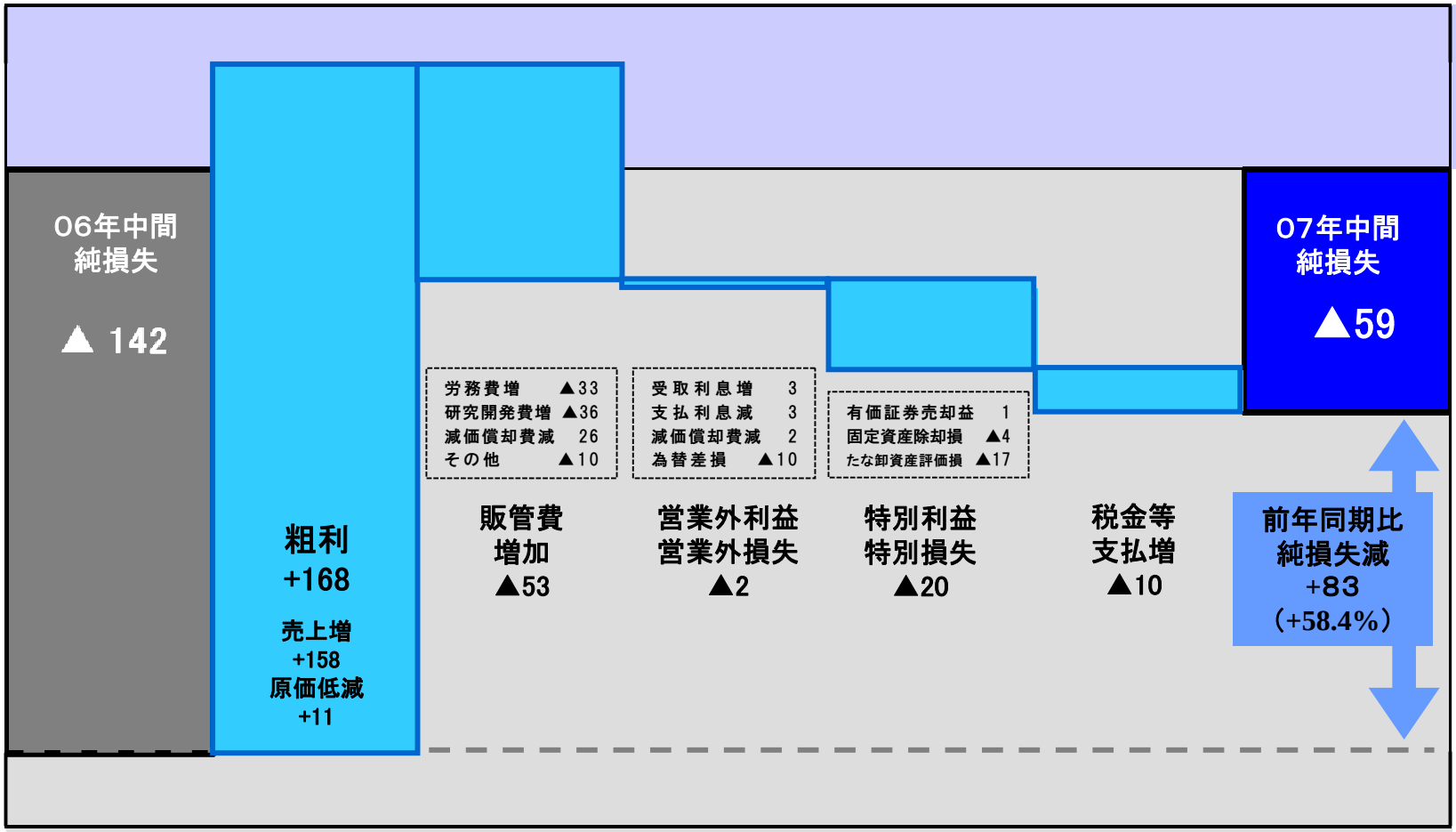
北米・中国が伸びる



当期純損失圧縮の要因分析(連結)

粗利率向上で純損失を圧縮

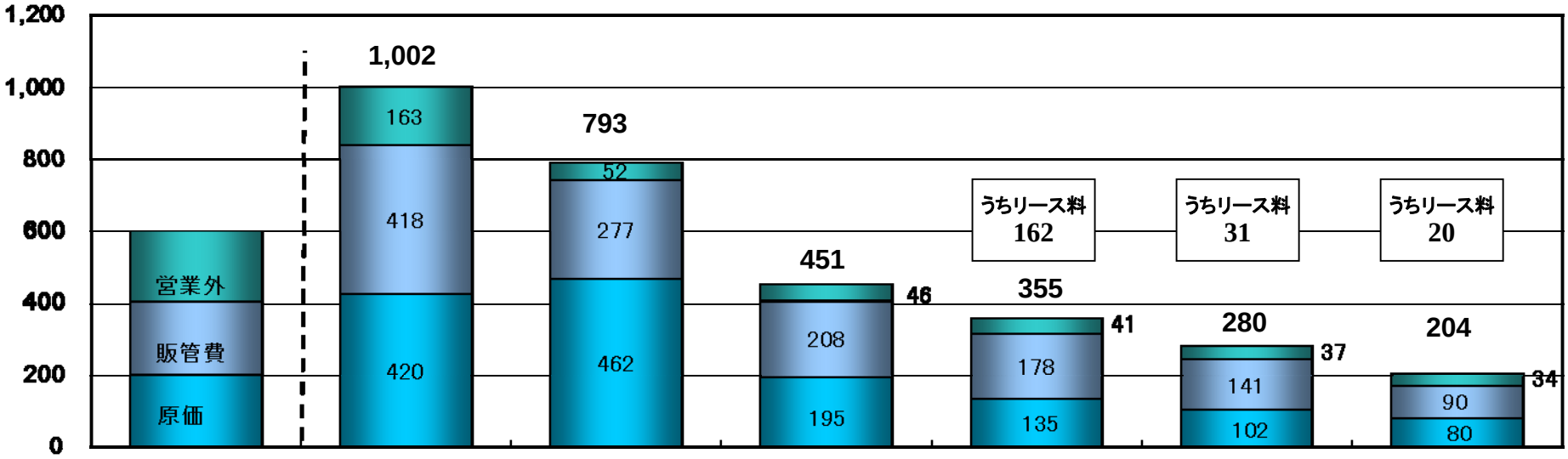
(単位:百万円)



減価償却・リースと投資の推移（単体）

負担圧縮が進む　投資・研究開発費は増加へ

（単位：百万円）



02年		03年		04年		05年		06年		07年（予）	
投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額
本社敷地	79	製造設備	168	製造設備	28	製造設備	13	製造設備	29	製造設備	26
製造設備	87	ERPシステム	12	業務ソフト	3	営業機材	6	営業関連	6	開発関連	19
ERPシステム	110					運搬車両等	2			その他	5

投資計	276		180		31		21		36		50
研究開発費計	303		285		259		220		217		252

2007年通期予想（連結）

通期予想変更なし

（単位　百万円）

	06年 通期実績	07年 通期予想	前年度比（通期）	
売　上　高	3,073	**3,834**	+761	+24.7%
営業利益	37	**275**	+238	+627.5%
経常利益	▲11	**235**	+246	(+2195.0%)
純　利　益	20	**225**	+205	+1019.2%

参考：2007年中間実績（単体）

（単位　百万円）

	06年中間実績	07年中間実績	前年同期比	
売　上　高	1,278	**1,390**	+112	+8.8%
営業利益	▲113	**▲39**	+73	(+64.8%)
経常利益	▲141	**▲67**	+73	(+52.3%)
純　利　益	▲143	**▲89**	+54	(+37.7%)

当社を取り巻く環境

世界の通信市場

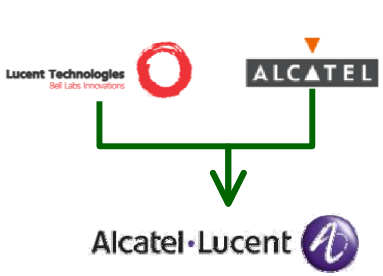
光ファイバー網　社会のバックボーンへ

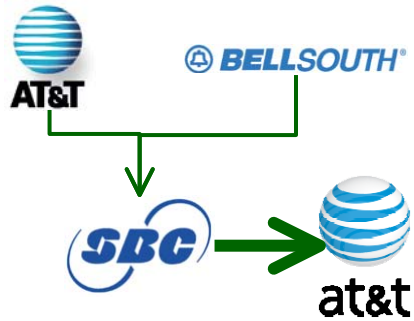
◆日本

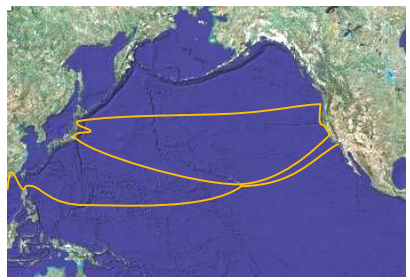
- ◆ブロードバンド世帯普及率50%を超過
- ◆WiMAX　商用化へ向けて進む
- ◆NGN着実に進む　通信事業者・通信機器ベンダーが共に注力

◆ワールドワイド

- ◆大手通信事業者　好業績
  - ◆BT　AT&T　など
- ◆北米　通信設備投資促進へ
  - ◆統合一段落　　腰を据えて活動を開始
  - ◆トラフィック増加　　YouTubeなどの映像配信
- ◆海底ケーブル　既存ケーブル増強を軸に淡々と進む

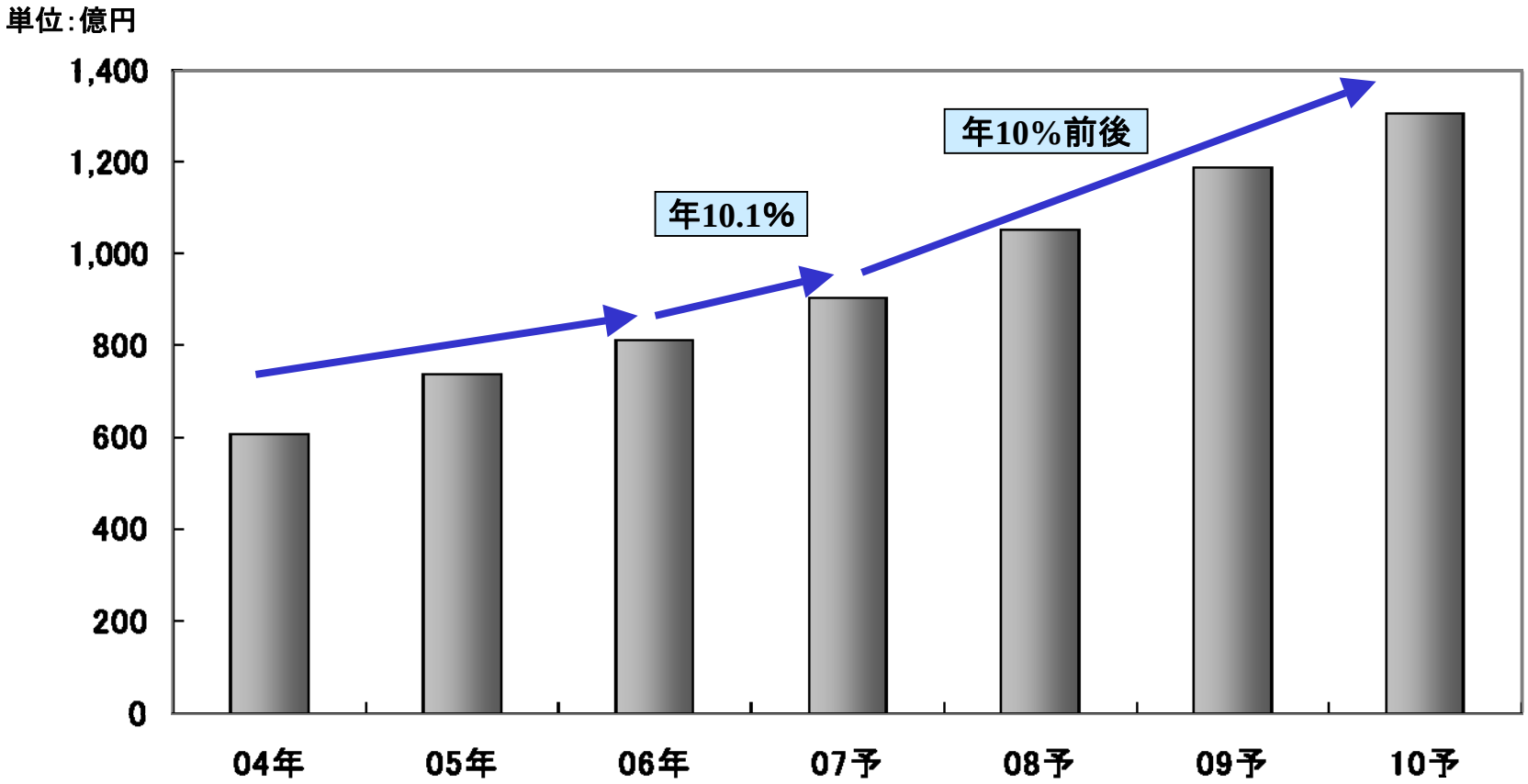






光受動(パッシブ)デバイス市場の推移

ロング・メトロ市場が安定成長



光パッシブデバイスには、MUX・DEMUX、光アイソレータ、光カプラ/スプリッタ、光減衰器、光通信用レンズ、光通信用誘電体多層フィルタを含む。

(出所:富士キメラ総研「2007光産業予測便覧Vol.1」 より当社作成)

光通信市場を動かす技術

「統合・快適」と「安定・安心」

- **NGN**（Next Generation Network：次世代網）
  - 既存の通信網を全IP化するために研究されている共通規格
    - 広帯域かつ品質（QoS）制御可能　オール・パケットベース
  - ITUで　規格「リリース１」が完成＝勧告へ

ネットワークの劇的改革

- **3.5－4G**（携帯電話）
  - 14Mpbsの3.5G（08年 DoCoMo）　100M～1Gの4G（10年～）
  - WiMAX　広帯域移動体向けの無線通信

携帯トラフィック増加に拍車

- **TPS/QPS**（Triple Play Service/Quadruple Play Service）
  - 音声・データ・映像を一本の光ファイバで伝送（トリプルプレイ）
    - ✧ 地上波問題を残しつつ本格サービス開始（日本）
  - トリプルプレイに、更にモバイルを加えるクアドルプルプレイ

Access向け設備投資増加

光ネットワークの市況

Long Haul

トラフィック増対応のための増設投資が堅調
次世代網(NGN)への注力が見られる
海底ケーブル敷設投資が淡々と進む

Metro

FTTHに押し上げられ需要発生
携帯電話向けのバックボーン投資が強い
40Gなど高速・柔軟・エンタープライズ用途が意欲的

Access

日本FTTHリード、北米追従、欧州・アジアこれから
インターネットが一般的なインフラとして定着
放送の取り込みが推進役

光システムのマーケット・トレンド

光は情報の基幹バックボーンを担う

個別のソリューションからバックボーンへ視点が移動

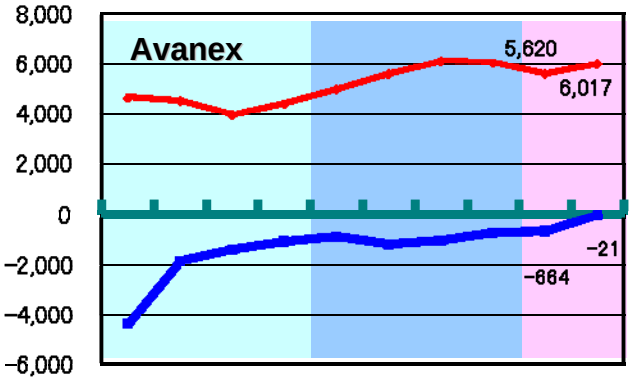
- 高速専用線
- FTTH
- インターネット
- 固定電話
- 携帯電話
- CATV

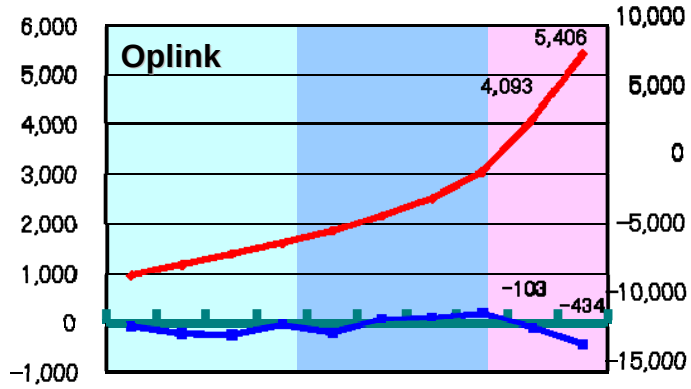
キャリアによる囲い込み戦略が背景に

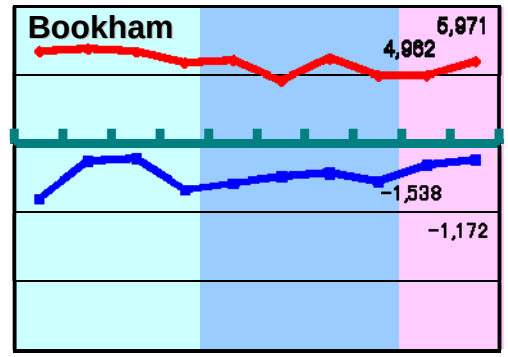
高速化に加えて、
柔軟性・冗長性・ファンクションが必要

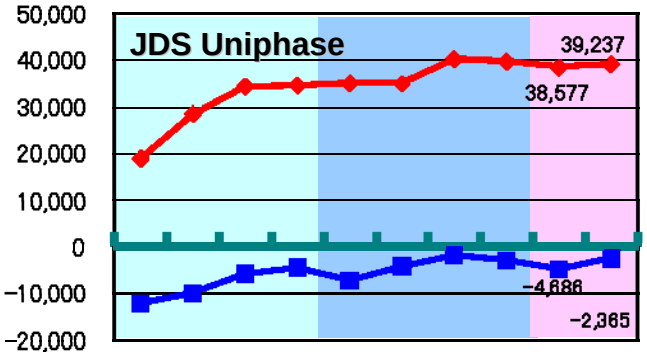
ベンチマーク　四半期業績の推移比較

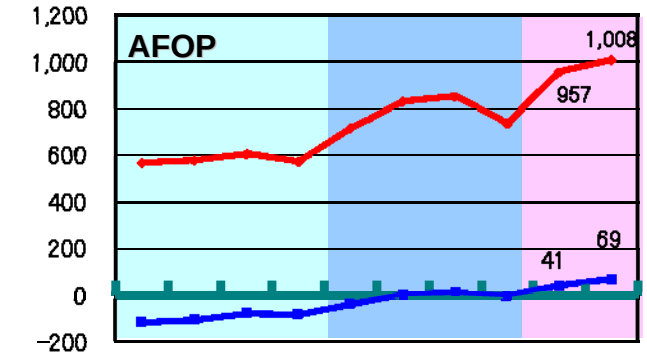
一部で黒字化　回復鮮明に

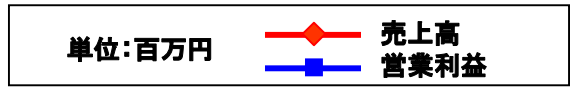


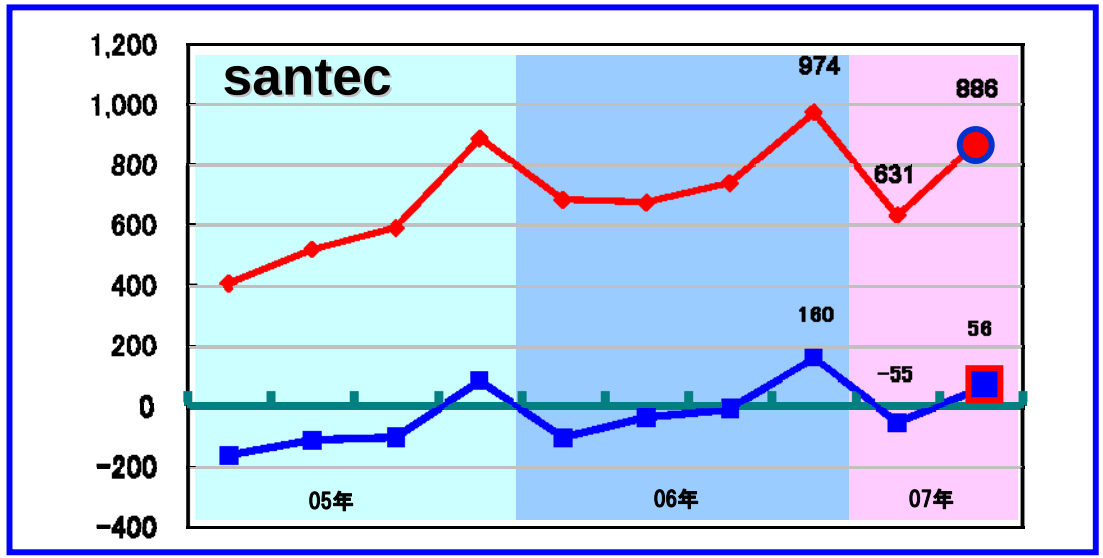












※各社開示資料から弊社作成。海外企業については1ドル=110円換算で表示しています。
※各社とも決算期が異なりますが、便宜上当社グループの決算期にそろえて色分けしています。

2007年度
全社基本方針と経営目標

2007年度　全社基本方針と経営目標

■基本方針

グローバル化が拡大する市場への対応と新分野事業の強化

■経営目標

1. 営業強化による顧客と事業の拡大

2. ユニークな新製品の創造

3. 群を抜く生産性向上

4. 業務・財務体質の強化

重点課題

営業強化による顧客と事業の拡大

■顧客密着度の向上
- PLM、営業フロントの同期
- 顧客接触回数増と内容充実
- 魅力あるQDCの提供と粗利益の追求

※PLM・・・ Product Line Manager

多くの展示会で顧客との接点を増やす

■海外営業力の強化
- 精度の高い顧客情報の入手と攻撃的活用
- グローバル対応力強化と拠点間連携体制構築

■新分野事業の拡大
- 医療用OEM光源の販売促進
- 厳選した新規市場・新規分野の開拓

顧客の本社・研究・生産拠点の分化

重点課題

ユニークな新製品の創造

■高い技術力と明確なニーズに立脚した新製品開発
- ・顧客、大学、研究機関に密着した製品開発
- ・NGN向け光部品、サブシステムへの注力
- ・ユニークな医療用OCTの先行実現

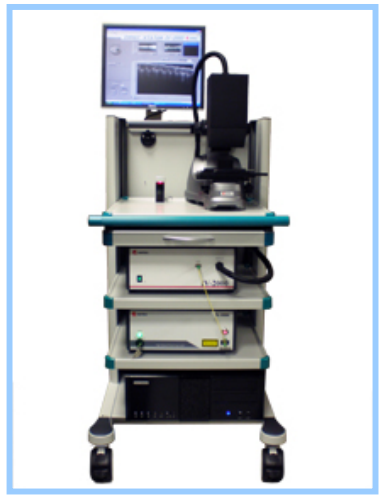
※ NGN:Next Generation Network(次世代ネットワーク)　OCT:Optical Coherence Tomography(光干渉断層計)

OTF-950

■コスト意識の徹底と原価低減の推進
- ・現流品後継機種の早期開発と戦力化
- ・開発、設計からベンダー、材料開拓を含めた開発

スクランブラー

TPR



OCTシステム

重点課題

群を抜く生産性向上

■光部品製品の海外生産化促進
- ・モニタ製品の中国生産化

■海外資材調達力の拡大と強化
- ・部品調達先のマルチベンダー化拡大
- ・調達先間の連携強化と物流改善

■生産改革活動による内製コスト削減
- ・セル生産化拡大とレベルアップ
- ・自家設備開発による作業合理化

中国協力会社　当社ライン稼働記念式典

中国協力会社　当社ライン

重点課題

業務・財務体質の強化

■コンプライアンス経営の徹底
- ・Ｊ－ＳＯＸ法における内部統制への対応
- ・内部監査体制の強化

■財務体質の改善
- ・キャッシュフロー管理の強化
- ・在庫、仕掛金額の見直し削減

■業容拡大に向けた人材確保と育成

内部統制システム　社内説明会

人材確保のための採用活動を展開

The Photonics Pioneer of Networking

—— ネットワーク時代の光技術先駆者になる ——

本資料に関するお問合せ先

santec株式会社
IRグループ長　今城 星秀
電話　0568-79-3535(代表)
URL: http://www.santec-net.co.jp/

〒485-0802
愛知県小牧市大草年上坂5823
フォトニクスバレー　大草キャンパス

当資料におけるsantec株式会社の見通し、市場分析、戦略等の考え方は、資料作成時に入手可能な情報から経営陣が判断した考え方でありますが、実際の業績は様々な要因によって記載の予想とは大きく異なる場合があります。従いまして、これらの将来の戦略、市場分析、業績の見通しに関する情報につきましては、正確または有効な情報であると依拠されることはお控えくださいますようお願い申し上げます。